



2022-23 年度
国際ロータリー会長
ジニファー・ジョーンズ

Weekly Report Niigata



2022～23 年度
新潟ロータリークラブ会長

石川 治老

新潟 RC 12月第 3例会 (2022.12.20) (Zoom 例会併催) No.3441

(1) ロータリー—ソング「それでこそロータリー」

ピアノ演奏

(2) 石川 治老会長挨拶

先週は桂離宮の拝観コースに従って庭を紹介し、入口から御幸門、外腰掛、松琴亭、賞花亭をご紹介しました。本日はその続き園林堂、笑意軒、古書院、月波楼、書院の玄関をご紹介しつつ、桂離宮の全体の構成のポイントをご紹介したいと思います。

園林堂は桂離宮の中では異色の作りの建築物です、桂離宮のなかで唯一の仏教的な要素で、宮家の位牌等を安置するための持仏堂として宮家二代智忠親王の時代に建てられ、当時礼拝の場として用いられてきました。

御殿や茶屋と比べると、突如存在する寺院の建物でやや堅い印象ですが、この園林堂は、庭園と調和するための工夫として屋根の形や周辺の飛び石との接続の仕方やなど工夫が見られ、敷石とつくばいは、幾何学的な造型で、近代的な造型センスが感じられます。

橋を渡り「園林堂」を振り返ります。土橋のアーチと堂の屋根をみるとそれが1つのセットのようにデザインされているように見えてきます。またここからの池の眺めは松琴亭からの池の眺めと異なりなり仙洞御所にも通じる優雅さを感じられます。

笑意軒は 茅葺寄棟造りの母屋に柿葺の廂を付け 作り出しのある間口の広い田舎家風の茶屋で 前面には整然とした方形の池があり 切石を直線的に畳んだ人工的な汀線をもち北に面する船着場には二箇所石段から下りることができます。まさに以前の仙洞御所っぽい箇所です。その東端に 三光灯笼が置かれています。

「笑意軒」窓の向こうは、かつてからここはウリの名産地として知られており、その畑の風景を庭の一部として取り入れられていて、畑の中の農家という設定を維持するために宮内庁が隣地の畑を買い取り、3 軒の農家に貸して耕作を頼んでいるという事です。

この笑意軒の延段は外腰掛の延段が行であったのに対し「草の延段」で自然石だけでできています。

「松琴亭」と「賞花亭」は「亭」と名付けられているのに対し「笑意軒」に「軒」の字が使われているのは「笑意軒」だけには宿泊のための設えがあるから との事です。

「新御殿」、「楽器の間」を挟んで、右が「中書院」です。いずれも高床の上に立っている。白い障子が縁側の外に巡らされている。床下にも白い壁が塗られ、白い面と黒い縦線の対比が美しい部分です。

新御殿と中書院はよく似ているが、新御殿の障子の上の横線、縦線の強弱など、微妙に変化させデザインされていて、当時としてはかなり斬新なデザインであり、近代的とすら感じます、今でいえばデザイナーズヴィラってところだと思います。

この写真は古書院です、屋根が池に向かっていて、桂離宮でもっとも早くできた部分です。大きな踏石りっぱなものが使われています。

つづいて月波楼です。ここも名前の通り月を鑑賞するために建てられたと思われ、場所的にもかなり無理をして池に映る月をめぐるための位置取りとなっていて、石垣でかさ上げされ、また古書院の入り口の作りにもこれによりかなり制約が出ています。

北側の窓からは紅葉山が見え秋には紅葉を楽しむことが出来ますが 住吉の松の両側の刈り込みのため こちらからは池は見えない趣向になっています。一の間と二の間の境の襖には明かり取りのための障子が組み込まれた「源氏襖」が使われています。襖の唐紙は紅葉。紅葉の上に雲母で水が書かれていて、龍田川の風情を表し 鎌型手水鉢と共に「秋」を表しています。

「月波楼」は町中の茶屋と見立て、「松琴亭」はいちばん格の高い茶室で眼前の海を見る茶屋とし、「賞花亭」は峠の茶屋、「笑意軒」は田舎家と、4 つの茶屋はそれぞれ特色をもったつくりになっています。

最後に、本来ここが書院への玄関口。「御輿寄」と言われる部分です。手前からまっすぐに伸びているのが「真の延段」です。切石だけでできており、園路の中の「行の延段」「草の延段」に対し切石だけで作られています。

4 段の石段を登って、大きな御影石の「六つの沓脱」という切石から室内に入る事になります。正規の玄関ではない、いかにも玄関大玄関といった風情ではなく、まるで裏口のような作りでありながら、いろいろと工夫がされており、桂離宮の性格がここにも出ているのではないかと思います。

振り返ると客人は蘇鉄山の前の外腰掛から始まり、松琴亭、海に見立てたで財力のある庭の凄みを見せられ、感心しながら進み、その後山林風の園路を通り峠の茶屋的な賞花亭に

たどり着き、気分を変え、その後、園林堂を経て、田舎家風の笑意軒でさらにリラックスして過ごす、またそして町の茶屋に見立てた月波楼にてまたくつろぎながら月をめぐるなど、本当にここまで考えられ、作りこまれた庭園は他にはないと感じます。

この庭園は誰が作ったのか問う話なのですが、この桂離宮は現在の小堀遠州が関わり作庭したといったはっきりとした記録はございません。造園関係の庭園史家の森蘊(おさむ)氏は小堀遠州作を否定しました。そしてそれに倣ってか、宮内庁のホームページでも桂離宮のページでは一切小堀の名前は出てこないのです。

しかしながら、この庭園の特徴や、使われた技法などを考えると、どうも小堀遠州の手が入っているような気がしてなりません。実際に桂離宮のガイドさんの口からは遠州好みといったセリフは何回も出てきます。

検証として皆様にお伝えしたいのが桂離宮にあるいくつかの西洋的な庭園技法について、お話したいと思います。

その一つがパースペクティブ的/手法ビスタ的手法 つまり遠近法の一つです。

パースペクティブ手法は一定方向に軸線をもつ景観構成手法で、規模は大きく違いますが、例としてベルサイユ宮殿などがそうです、よく並木などで奥行き感を表現する方法にも用いられます。

ビスタ的手法景の焦点には建物や庭園装飾物、添景物などがアイストップまたはランドマークとして置かれる。国内では、神宮外苑の絵画館前のイチョウ並木がこの構成です。

パースペクティブな手法として、表門の砂利の道も御幸門の周辺は広く表門あたりの道幅は狭く作られていてガイドさんの話によると帰る際に名残惜しく道が長く感じられるように作られているとのこと。

そして松琴亭の待合から見た飛び石や延段なども同じ作りで、切り石と自然石の組み合わせでできており、全長は17mあります。注目するのはその幅。実測してみると、始点の幅は86cmでしたが終点は81cmでした。

つまり先に行くほど細くなっており、遠近法を操作して奥行きを深く見せています。

つまり小堀遠州とその周辺の物しか知りえなかった西洋的庭園の要素がこの日本の庭園及び建築の美の代表と言われる桂離宮に多く取り入れられている点と、またこれほどの完成度を誇る建築や庭園をこの時代誰が作れるのかといった点が非常に疑問なのです。多く用いられる直線の刈込や切石及び延段そして仙洞御所でも使用した直線的護岸・船着き場・・・そして幕府には意味を隠しておきたいと思われる、いたるところにある隠れクリンタン灯籠・・・

庭に直線や幾何学的な抽象的テーマを持ち込んだまさに、小堀遠州ならではの気配がします。

徳川家康は秀吉の息のかかった智仁親王を朝廷のトップ

には絶対したくなかったし、天下を手中に収めた時には、皇室そのものの政治介入を排除したいと、この時、既に念頭に置いていたと思われ、

幕府お抱え作事奉行の小堀遠州は、智仁親王の桂の別荘計画に多いに興味を持ったとしても、立場上、表立って関わる事は絶対出来ないはず。

しかしながら、人を介してラフスケッチ等でアイデアを指示していた可能性も無きにしもあらず、ではないかと思えます。

全て極秘で絶対に遠州の名前が出ないように密約的に。それが皇室の記録、小堀家の記録にも意図的に残さず、施工を行い、「遠州好み」の蹲踞、飛び石、延段、笑意軒の直線的な船着き場、斬新な茶亭の数々、余りにもあからさまに小堀遠州の育んだ庭園のエッセンスをここぞとばかりに詰め込んだ庭園といえるとおもいます。

師である利休、織部とは違う、新しい茶の湯を模索していて、利休のストイックな侘び寂びからの脱却し、真・行・草の柔軟な茶の湯、舞台も書院、数寄屋、草庵、遠州の最大の特徴を示す八窓席等、数多くある織部灯籠など織部の弟子らしい発想でこの庭が出来ているとしか思えないのです。

造営に実際記録に残されている人物が二人います。一人が江戸時代前期の茶人の中沼左京で、妻は小堀遠州の妻の妹。もう一人が江戸時代初期の日蓮宗の僧、作庭家の玉淵坊。小堀遠州の孫弟子になると思われ。いずれも遠州から影響、深く関わりのある人物が桂離宮の作庭に関わっていた事になります。

彼らにひそかに指示を与えるのは容易だったのではないかと考えられます。こんなところがこの桂離宮の裏の事情でまた魅力であるとおもいます。

(3) インターアクト献血活動報告(高野幹事代読)

12月18日(日)、市内4校のインターアクターによる献血呼びかけキャンペーン無事に終了しました。新潟クラブからは、小木ご夫妻、北爪さん、梅澤さん、岡村さんの会社の方からも献血にご協力頂き、ありがとうございました。当日は、あいにく一日中の雪で寒い為、街を歩いている方が少なく、呼びかけに苦慮する場面もありました。本年度はステージイベントは行わず、時間短縮で取り組みましたが、コロナ禍前のキャンペーンに近い恰好で呼びかけができたことは、非常に意味があったものと感じたところでございます。次年度は、新潟RCがホストです。次年度も皆さまのご協力をお願いいたします。(大澤IA委員長より)

(4) 各種ご寄付の発表

ロータリー財団寄付発表(安藤 栄寿副委員長)

高橋 秀松君

米山奨学会寄付発表(白勢 仁士委員)

高橋 秀松君

青少年育成基金寄付発表(武田 眞二副委員長)

小飯田 澄雄君

ロータリー保育園クリスマス訪問報告

社会奉仕委員長 宮島多佳子

12月23日、社会奉仕委員から福満さん、宮島、そして石川会長、高野幹事がロータリー保育園のクリスマス会に参加してきました。4人の「ロータリーサンタおじさん&おばさん」は、子どもたちに里仙さんがご用意くださった可愛いサンタのお菓子を見せたり、サンタさんにまつわるクイズを出したりの大忙し。一緒にタンバリンやカスタネットを叩いたり、踊ったり楽しいひとときをすごすことができました。まだまだ続くコロナ禍の中での参加となりましたが、クラブ由来の保育園との交流でした。ご準備いただいたRC事務局、会長、幹事、福満さん、佐藤さん、誠にありがとうございました。



(5) ニコニコボックス紹介(関川 博信委員長)

・小飯田 澄雄君 ①12/6 開催された「野鴨を食べる会」に39名の参加を頂きました。コロナ禍にもかかわらず大勢の参加を頂き、又、皆様の楽しそうな様子を見て、ニコニコ致しました。ありがとうございました。②結婚記念日の花(シクラメン)を」頂きありがとうございました。

・敦井 栄一君 お誕生日御祝いを頂き忘れていた年を思い出しました。来年も宜しく願い致します。

・坂井 賢一君 69歳になりました。あと1年で70歳です。元気よく、がんばります。

・石橋 正利君 誕生日のワインありがとうございました。74歳になりました。周囲から元気ですねと言われて嬉しいです。

(6) 幹事報告(高野 潤幹事)

・新潟市内ロータリークラブ連合事務局は12月28日より1月4日までお休みさせていただきます。

・新潟市内7RC 合同例会が2023年2月22日に開催されます。詳細案内を本日郵送致します。

(7) 動画による

新潟明訓高校インターアクトクラブ活動報告

(8) 12月20日の例会参加率

会員数	算定対象者	出席者	参加率
90	87	54	62.09

Zoom 参加 26名

12月27日は規定適用休会

1月3日はお正月3ケ日につき規定により例会を開催致しません。

次回例会は1月10日 第一例会につき卓話なし

新潟ロータリークラブホームページアドレス

<http://www.niigatarc.jp/>

コラム 「平和」

小山楯夫

戦争が永遠に続くことなどありえません。平和が必ず来るし、来るようにしなければなりません。来る年月、非常に困難で厳しい任務がロータリーを待っています。戦争で荒廃した世界の傷をいやすこと、憎しみを相互理解や寛容に代えること、恨みの存在するところに愛情を築くこと、敵を友人に代え、激しい怒りや武力闘争を善意と国際平和に代えることがロータリーの任務です。私たちがしなければならないことは人間の能力を超えた任務です。これは、ロータリーが全力を尽くす任務です。とはいえ、私たちには、私たちの原則以外に何の手段もないし、熱意以外の力もありませんが、私たちロータリアンは人類を大いに信頼していますので、勝利を確信しています。

ロータリアン誌、1942年5月号掲載記事より